

小・中学生民生委員体験事業の実施について

民生委員児童委員の現状と課題

本市では、令和8年1月末日時点において、定数が131人のところ、109人の方に委嘱しており、22の地区で欠員が出ています。委員については、60歳以上が82.6%を占めており、後継者不足による高齢化や任期の長期化などが課題となっています。

■ 令和8年1月末日現在の状況

	島松	恵み野	和光	恵庭	柏	主任児童委員	計	割合
定数	22	21	21	24	33	10	131	-
現員(男)	7	10	7	9	10	0	43	39.4%
現員(女)	12	8	10	12	16	8	66	60.6%
現員(計)	19	18	17	21	26	8	109	83.2%
欠員	3	3	4	3	7	2	22	16.8%
平均年齢(男)	71.4	73.3	67.1	75.3	73.8	-	-	-
平均年齢(女)	63.7	70.5	67.1	68.8	65.2	58.0	-	-
平均年齢(全体)	66.5	72.0	67.5	71.6	68.5	58.0	-	-
50歳未満	2	0	1	0	3	0	6	5.5%
50歳代	1	0	1	2	2	7	13	11.9%
60歳代	9	6	8	4	5	1	33	30.3%
70～74歳	6	8	3	6	10	0	33	30.3%
75歳以上	1	4	4	9	6	0	24	22.0%
最年少	48.3	60.7	43.11	56.11	45.3	55.7	-	-
最年長	76.0	81.6	78.1	79.5	81.10	66.3	-	-

令和7年度「民生委員児童委員 主任児童委員アンケート」から見えた傾向等

- 民生委員のなり手不足の理由としては、「民生委員に限らず地域団体の役員等のなり手が不足」、「地域活動への関心の低下」、「民生委員制度や活動内容の認知不足」などが挙げられています。
- 活動における悩みとして、「仕事や家庭による活動時間の確保」、「民生委員の高齢化」、「個別相談への対応」などが上位に挙げられています。
- 活動しやすくするために必要な要素として、「町内会との連携強化」、「行政からの必要な個人情報の提供」、「民生委員活動の広報周知による地域理解の促進」などが求められています。
- 民生委員児童委員活動の認知度向上、活動内容の見直し(ICT活用を含む)、各関係機関との連携強化を図る

担い手確保に向けた新たな取組について

- 令和8年度から小・中学生民生委員体験事業を実施する予定。